

こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、移住定住支援や中心市街地の活性化、有機農業の推進など、様々な分野で協力隊の皆さんが活躍しています！

令和元年度から地域おこし協力隊として活動している仲間をご紹介します！

4月11日に有機農業隊員として着任した飯沼孝太(いいぬま こうた)さんは、有機農業隊員として、生産はもちろん、販売や配達などを通して、有機農業の取り組みを広めるための活動をしています。地域や町なかの食のイベントなどでも、ほんまもん野菜をPRする姿を見かけることがあるかと思いますが、その際にはぜひ声をかけてみてください。

自己紹介

令和元年4月から有機農業隊員に着任しました飯沼孝太と申します。東京都町田市出身です。音楽学校に通い、その後は音楽活動をしていましたが、東日本大震災をきっかけに農業に転向しました。神奈川県で3年、北海道で3年、農業法人や個人農家で働き、稲作、畑作、野菜、果樹、酪農、醸造、林業...農法としても慣行農法から有機農法、自然農法、バイオダイナミック農法etc...と幅広く研修してきました。

しかし、どちらの自治体でも「農家になりたい」と相談すると歓迎してくれるのですが、「有機で」と言うと困り顔...有機農業がしたくてもなかなか行政に協力してもらえないという壁にぶつかっていました。そこで有機農業を推進している自治体を検索して臼杵市に辿り着きました。

本当は一から有機の里を作るくらいのがッツがなければいけないと思うのですが...意識が高くて活動しやすい臼杵市で力をつけて、世の為、人の為、未来を生きる誰かの為に頑張りたいと思っています。



活動内容

一年目は生産、販売、配達、その他普及活動など与えられた仕事をこなす日々だったのですが、二年目からは主体的に活動できる時間が増えるので、農産物の生産や販売だけでなく、食の大事さを改めて感じてもらえるような企画を積極的に立案していきたいと思っています。簡易食品ばかりを食べていた2011年当時の僕は、放射性物質の拡散の情報に不安を感じるばかりで、何もできずにいましたが、食生活が変わることにより免疫力や生物としての能力が高まったことを強く実感しています。

安全なだけではなく、美味しさを追求して、より多くの人にほんまもん農産物を食べてもらえるよう努力したいです。特に食べるものを自分で選べない若者達にこそ食べてもらいたいので、給食への食材提供にも力を入れます。また、放棄竹林が増えているので間伐して竹材も有効活用したいです。今年度は休日を利用して竹材で育苗ハウスを作りました。

こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、移住定住支援や中心市街地の活性化、有機農業の推進など、様々な分野で協力隊の皆さんが活躍しています！

5月13日に一般隊員として着任した梶原涼晴(かじわら りょうせい)さんは、演劇をはじめとした文化芸術活動を通じて、臼杵市民の皆さん、特に若い世代、エルダー世代(高齢者)の方々の日常をもっと楽しく、もっとアクティブにしていくことを目標に日々活動しています。最終目標は、「臼杵を芸術文化による地域おこしの成功モデルに！」。

自己紹介

演出家の梶原涼晴です。この度文化芸術を通じた地域おこし協力隊として5月に着任いたしました。着任早々臼杵市民会館で開催した舞台公演「RADIO311」をご覧いただいた皆さん、ご来場ありがとうございました！ご覧いただけなかった皆さん、はじめまして！臼杵市名誉市民の塩屋俊さんからいただいたご縁でこの街を知り、現在に至りたくさんの方々との触れ合いを通じてどんどん臼杵が文字通り「すき」になり、遂に移住してしまいました。

東京生まれ、茨城育ち、株式会社博報堂への入社を機に再び東京へ。博報堂では広告に関わるあらゆるスキルを学ばせていただきましたが、入社して間もなくしてこっそり通い始めたアクターズクリニックで演技に没頭していた時間が忘れられず、入社10年と半年で退職。俳優の夢を追いかけてニューヨークへ。しかし人生そんなに甘くありません。1年経った頃には借金で火の車、おまけにヘルニアがみるみる悪化して歩けなくなり、渡米3年であえなく帰国。

頼る伝手もなく、ただ実家で廃人のように過ごしていると、そこへ電話。「メシ、食った？」僕が渡米を迷っていた時期に背中を押してくれた塩屋さんです。こうして僕は、導かれるように再び塩屋さんと二人三脚で演劇の道を歩み始めたのです。毎日のように飲み連れて行ってもらいました。酔った彼がしばしば僕に言っていたことを今でも覚えています。「俺は故郷臼杵で第二の人生を悠々自適に送るから、カジ！お前東京！任せた！」。

臼杵での終活は叶わず、塩屋さんは2013年6月5日、天国へ旅立ってしまいました。残された僕は？東京？臼杵？それとももう一度世界.....？本当の答えを運命みたいなものが教えてくれる前に、臼杵に来てしまいました。塩屋さんがもう一度過ごしたかったこの臼杵、まずは精一杯味わってみたいと思います。



活動内容

アクターズクリニックで巡り会ったたくさんの教え子たちとともに、また、これから日々出逢っていく臼杵市民の皆さんと一緒に、様々な文化芸術活動にチャレンジしていこうと考えています。また臼杵の地で語り継がれてきた数多くの歴史をじっくり研究し、それらを戯曲に起こし、舞台演劇や映像作品へと昇華させ、東京はもとより世界中に発信していきたいとも考えています。

また演技指導に携わる者としては、今まで演技に興味のなかった方々、演技に触れる機会を持つことがなかった方々にも、もっともっと演技に触れてもらって、演技、ひいては芸術というものが実は驚くほど人間関係を円滑にし、日常生活に活力や希望を与えてくれるものなのだということを、これから時間をかけて一緒に体験していきたいと思っています。そして、いつかは臼杵に劇団を！その名も「USUKI GROUP THEATRE」！改めまして、臼杵の皆さん、宜しくお願い致します！



こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、移住定住支援や中心市街地の活性化、有機農業の推進など、様々な分野で協力隊の皆さんが活躍しています！

8月21日に一般隊員として着任した**増本郁子(ますもといくこ)**さんは、移住・定住の担当として、空き家バンクの活用に関わりながら、自身の移住者としての経験や視点を活かして、移住モニターツアーや都市部で行われる移住相談会での移住者の対応など臼杵市への移住定住を促進するために幅広く活動しています。地域のイベントなどにも積極的に参加していますので、見かけたときにはぜひ声をかけてみてください。

自己紹介

初めまして。8月21日に、地域おこし協力隊(移住・定住)担当として着任いたしました、増本郁子と申します。出身は茨城県、出身地のほかは、小学生の頃に福岡県や兵庫県で過ごしたことがあり、臼杵市の前は東京都で暮らしていました。

「臼杵焼の工房をみたい！器を、いろいろ手に取って選びたい！」と思って臼杵を訪れたのが2018年4月のこと。そのときは観光目的の旅行だったのですが、16ヵ月後に住み始めることになるとは、我ながら驚きです。

臼杵は、古墳や数々の歴史的建造物があることから、古い時代から人々が住むことで培われた生活文化があり、それを大切にする風土があると感じています。海・山・川・城下町が織り成す景色に魅了されながら、人の出会いにも恵まれ、歴史が続く場所ならではの、興味深いお話を沢山聞かせていただいて、充実した毎日を過ごしています。



活動内容

移住・定住担当として、空き家バンクの調査、登録、内覧の対応のお手伝いをしながら、移住モニターツアーや移住者交流会、移住相談会などで、移住を検討されている方の対応にも携わっています。家は、人が住まなかったり、風通しをしていないと傷みが進みます。住むことによって家が長持ちし、生き生きしますので、空き家をお持ちのオーナー様がいらっしゃいましたら、是非一度ご相談ください。

みなさまにアドバイスをいただきながら、家々の灯が継続するための力に、少しでもなれるように業務に励みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、移住定住支援や中心市街地の活性化、有機農業の推進など、様々な分野で協力隊の皆さんが活躍しています！

3月1日に一般隊員として着任した**林 佑太郎(はやし ゆうたろう)**さんは、中心市街地の活性化を目的として、(株)まちづくり臼杵の一員として働きながら、特に同社の文化・芸術事業に対し、俳優・演劇講師としての経験を活かして、演劇を通じた地域の活性化や人材育成などに取り組みます。普段はサーラ・デ・うすきを中心に活動していますので、町なかで見かけた際にはぜひ声をかけてみてください。

自己紹介

この度3月から文化芸術を通じた中心市街地活性化を担う地域おこし協力隊として着任いたしました、林佑太郎です。北海道で生まれ、小・中・高と学生時代をバスケットボール一色で過ごしました。それまで俳優というものには一切興味を持ってはいませんでした。転機は大学入試センター試験の3日前に訪れました。追い込み時期であり必死に勉強中でしたがふと、「僕はこれから一生をかけて何をやりたいのだろう。」と考えたんです。すると何かが降りてきたのか5分足らずで答えを出していました。「俳優だ。」理由は至ってシンプルで、「一度きりの人生色んなことをしたい。」それで俳優かよ！と思われるかもしれませんが、本当にただそれだけの理由でした。ありのままを両親に伝えると、「うん、その方がいいと思う。」と…。改めて親の心の広さ、偉大さを特に感じた瞬間でした。

その後19歳で上京して10年間俳優として活動し、並行して演技学校(アクターズクリニック)で演技講師としても活動してきました。そして去年、縁があり臼杵を初めて訪れ、本当に魅力的な町だと感じました。それと同時に演劇という文化が未だ広められていない町にも感じました。俳優・演技講師として自分にできることがここにはあると思い、協力隊に応募いたしました。



活動内容

協力隊のミッションとして、まちづくり臼杵の職員としても活動させていただきます。

サーラ・デ・うすきの管理業務を行いながら、うすき街色事業演劇部門を担当します。文化芸術を通じて中心市街地を活性化させるという、向かう先は協力隊と同様であります。

今年1月に発足したアクターズクリニック臼杵サテライトによる人材育成や、これから動き出します市民劇団(劇団ムジカ)の発足により市民活動の活性化を図るなどして、演劇が文化として根付くようにあらゆる活動を積極的に行っていきたいと考えています。私自身がそうであったように、「これから舞台上に立つ方も、観客として来られる方も、心が豊かになる。」そんな空間をつくり続けていきたいです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

